

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科 職階 助教

氏名 堀香織

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任 ······ 3年
2. 教育の理念 ······ 3年
3. 教育の方法 ······ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組 ······ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組 ··· 每年
6. 学生の学修成果向上を図る取組 ······ 毎年
7. 指導力向上のための取組 ······ 3年
8. 今後の目標 ······ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医学科に所属し、産業動物臨床を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は下記の科目の担当と、付属動物病院においての産業動物診療技術の教育、研究室生の研究指導業務である。産業動物臨床についての基礎から応用までを教えるとともに、将来獣医師として臨床現場で働くうえで必要となる技術を身に着けられるよう指導している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
産業動物臨床基礎実習	獣医学科	選択	1V	128
牧場実習	獣医学科	必修	2V	154
基礎・産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	4V	132
産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	5V	155
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5V	170
獣医産業動物臨床実習	獣医学科	必修	5V	153
産業動物アドバンス実習	獣医学科	自由	6V	2
総合獣医学	獣医学科	必修	6V	163

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学生には、自ら考え、自ら行動できる人間になってもらいたいと考えている。まず、獣医師である前に、社会に出ていく一人の人間としてあるべき力を身に着けてもらいたい。自ら積極的に学ぶ姿勢、疑問を解決しようと努力すること、他者とコミュニケーションを取り意見を聞くこと、自分の意思を表現すること、このような基本的な力を身に着けられるような教育を実施していきたい。

獣医師として働くうえで、目の前の問題を多方面から考察する力、自ら疑問に思い解決する力が大切である。例えば臨床現場では、誰もが考えないような変化球が目の前の症例の解決となることが多い。常識の範囲内の思考では解決できないことが多い。授業・実習を通して、自ら率先して考えさせ、基本を身に着けたうえで常識にとらわれない発想ができる獣医師を育てたい。産業動物臨床現場の実際を伝え、将来の志望分野に関係なく全ての学生に産業動物臨床の重要性・醍醐味を伝えるとともに、将来社会に出て即戦力となり得る技術を習得させることを目指したい。また、産業動物臨床を学ぶ上で、日本の畜産の現状やあり方を考えることは重要であり、学生の立場から畜産について考える場を提供していきたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

教育するうえで、ただ知識を覚えるということが無いよう、理論を理解してもらえるよう気を付けている。授業内で、なぜそうなるのかを理解してもらえるよう丁寧な説明を心掛けている。

実習では、目の前の症例に知識をそのまま当てはめるのではなく、まずはよく症例を観察し、その場で臨床症状から考えられる疾病の可能性を自ら考え言葉にしてもらう。そして、なぜそう考えるのか、学生に質問しながら学生が自らの考え方説明する機会を設け、理解の定着を図っている。また、自分たちの担当して症例の予後の判定まで考察することで、経済動物としての産業動物を診療すること、畜産農家の立場・現状まで熟考し、獣医師としての判断の仕方を学べるように取り組んでいる。

(1) アクティブラーニングについての取組

有

- 提出課題の設定は、学生が向き合っている症例についての課題を選び、実際の症例とともに、そのバックグラウンドについても学び知識を結び付けられるようにした。
- 講義後的小テストでは、授業の重要なポイントを含め、学習効果を高めた。

(2) ICTの教育活用

有

- 配布資料は事前にPDFにてアップロードし、授業前に学生が確認できるようにした。
- 講義内で、3D模型図や臨床現場での写真・動画を多用し、実際の症例を視覚的に体験できるようにした。
- 実習での手術手順の手順書を作成し、図を多用することで実際の手術内容の理解が深まるようにした。
- 手術時に知識として必要な幹部骨の3D画像を共有し、手術時にも印刷して提示することで、手術内容の理解が深まるようにした。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

授業スライドは、図・写真・動画を多用し、講義内で十分説明を実施し、授業スライドを見たうえで講義を受けて理解が完了するよう努めた。復習を兼ねて、講義に関する他の分野の内容も必要に応じて説明し、理論的に理解できる様にした。授業スライドは、今後より分かりやすいものにアップデートしていきたい。

実習では学生主体で、責任をもって担当症例について治療・管理方針を決定できるように努めた。治療内容については極力学生の意見を尊重し、違う方針を選択したほうが良い場合は、理由を考えさせながらより良い方向へ誘導し、学生が納得し理解を深めたうえで、治療を行うようにした。すべての症例において、学生とともに検査を実施し、その結果に基づいて、治療方針を判断するようにした。そうすることで、すべての治療はエビデンスに基づいて行われることを理解させ、また、必要な検査、必要な観察部位も実例をもって会得するよう努めた。症例検討会での発表のために、担当症例の予後を考えさせ、実際に畜産農家に説明するとしたらなんというかまで考察させることで、症例のバックグラウンド、畜産の現状についても学ぶことができるようとした。一人で同時に三班を担当することとなり、時間にも制約があったため、今後はより隅々まで目が届くよう工夫しながら、すべての班に平等な密度の濃い実習ができるよう努力したい。

(2) 学生の理解度の把握

A

講義後は小テストを行い、結果を見て理解度の把握に努めた。実習・症例検討会では学生に頻繁に質問し、理解できている点・できていない点を認識するようにした。関連する項目については、他分野に関することも質問し、ディスカッションするように努めた。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

小テスト・レポート課題を課し、自主学習を促している。しかし、文献検索の練習も兼ねて、より考察させる課題の提示が必要だと思われる。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

実習中は、こちらから積極的に質問やヒントを提示し、学生から質問しやすい雰囲気をつくるよう努めている。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義においては、一方的講義とならないよう、適宜質問があるか呼びかけたが、講義範囲が多く、内容が多く速足の講義となってしまうことがあった。一方的講義とならず、より考えさせる内容とする必要がある。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

実習中には、症例に関連する事項を各分野問わずクイズの様に質問し、理解していない点は説明をするようにした。一つの症例に関しても、薬理学・繁殖学・内科学など様々な方面から質問・説明をし、総合的に理解を深めるようにした。

講義では、なぜそうなるのかを基本的な部分から説明し、丸暗記せず理論的に理解できるよう工夫した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価を受け、意欲的に取り組めたという面に関しては、より改善し継続できるよう、熱意をもって授業を行った

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

実習においては、一方的にならないよう、学生自ら考え診断する参加型の実習を行えたと考えている。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

講義について、内容が多くスピードが速く一方的な授業にならないよう、内容を見直し、メリハリのついた講義を心掛けたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

知識を覚えるだけでは定着しない。臨床症例などを通して、その症例に関連付けて知識を習得することが必要である。そのため、実習では過去に学習した様々な分野の知識を引き出すよう質問し、症例をまとめるにあたってはこのことを意識して助言を行う。

（2）（1）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組

に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生から、動画や写真が多く授業が分かりやすかった、原理から説明してもらえてよかったですとの評価を受けた。また、症例発表では良く理解しはじめていた班と、理解が足りていない班があったため、すべての班により理解してもらえるよう努めたい。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学内FD研究会に可能な限り対面で参加した。難しい場合にはオンデマンド資料を視聴した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医学的な知識を身に着けるのはもちろんのこと、自ら考え、総合的に判断し、さまざまな手段を使いながら解決するという社会で必要な力を身につけられる教育を行いたい。考える力や、さまざまな場面で適応できる力を学ぶために、積極的にコミュニケーションをとり、疑問を投げかけ、一方的でない相互的な教育を行うことを目標とする。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

シラバス、配布資料、FDプログラムの参加記録、Researchmap